

朝日町 観光のまちづくり計画書



平成23年
山形県朝日町

目次

総論

はじめに	1
Ⅰ 計画の目的と基本目標	1
Ⅱ 朝日町観光を取り巻く状況と課題	2
Ⅲ 基本方針	3
Ⅳ 施策の展開	3
Ⅴ 目標(指標)	4

各論

Ⅰ 人材育成と観光振興態勢づくり	5
Ⅱ 舞台の整備	6
1. 観光資源の発掘	6
2. 観光施設の整備	6
3. 観光案内施設の整備	7
4. 交通網の整備	7
5. モデルコースの設定	8
Ⅲ 交流の促進	8
1. 交流メニューの発掘及び展開	8
2. 朝日町ファンクラブの設立	9
3. 広域的交流・観光の推進	10
Ⅳ 情報の受信及び発信	11
1. 情報の収集整理	11
2. 観光情報の発信	11
3. 情報提供の具体的方策	11
Ⅴ 観光産業の振興	12
1. 観光産業、関連産業の活性化	12
2. 特産品開発と販路拡大	13
3. 朝日町素材を活用した「食」の提供	14

別掲 主要観光施設の整備

1. 山岳観光	15
2. 最上川とその流域	16
3. 朝日自然観	16
4. りんご温泉	17
5. 大沼浮島及びその周辺	18
6. 空気神社	18
7. 朝日町ワイン	19
8. 榎平の棚田と一本松ひめさゆり園	19

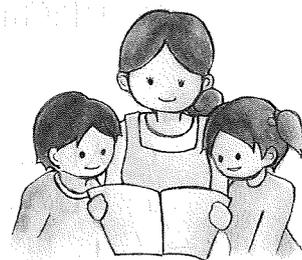
はじめに

わが町の観光は、大沼から大朝日岳の山岳信仰にはじまり、名勝大沼の浮島、佐竹家住宅、豊龍神社の大スギ等の史跡・文化財、空気まつり、ワインまつりなどイベントの開催、朝日自然観、りんご温泉など施設設備をおこない、時代にあわせた対応をしてきました。

平成に入り、バブル経済の中でリゾート開発が進みましたが、その崩壊とともに個人の価値観が多様化し、これまでの振興策では対応できない状況にあります。

平成20年策定の第5次朝日町総合発展計画（以下「5次総」という。）では、これまでのエコミュージアムによる内発的な地域づくりを一步進め、「交流」による活力あるまちづくりを理念のひとつに掲げ、どこにもない世界にひとつだけの朝日町づくりをめざしています。

今回、観光基本計画を見直すにあたり、交流をキーワードにソフト面を重視した朝日町らしい観光をめざします。



1 計画の目的と基本目標

1. 計画の目的

本計画は、5次総に掲げる将来の町の姿「空気澄み 人つながり 志高く 未来を拓く 朝日町」をめざし、観光振興に関する方向性を示すため策定するものです。

観光は多くの観光客の流入をもたらすと同時に、観光客と地域の人とのふれあいなど新たな交流を創出し、地域の発展に果たす役割も大きいものがあります。

また、産業としての観光は、旅行業、交通産業、宿泊業、飲食産業、娯楽産業、土産品産業など幅広い分野を包括しており、さらには第1次、第2次、第3次産業と結びついた第6次産業として21世紀の基幹産業になり得ます。

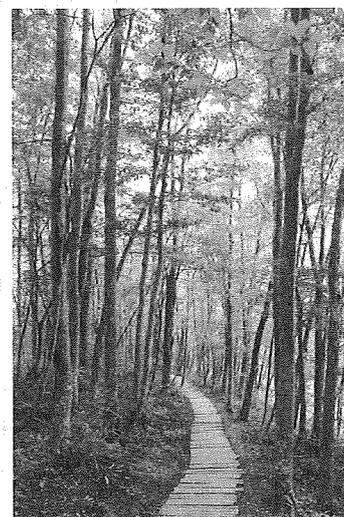
これらの状況をふまえ、「大朝日岳山麓」、「りんごとワインの里」、「地球にやさしい町」など朝日町の特徴をいかした計画とします。

2. 基本目標

5次総における産業力向上に向けた基本方針のひとつである「地域の宝物を活用した交流・観光の推進」を本計画の基本目標とします。

3. 計画の期間

本計画の期間は、平成23年度から平成29年度までの7年とします。



II 朝日町観光を取り巻く状況と課題

経済のグローバル化、情報技術に代表される技術革新などにより地域経済を取り巻く環境は大きく変化し、農産物価格の低迷や企業の撤退などにより、本町の農業生産額、製造品出荷額などは低迷しています。こうした状況の中、観光振興の取り組みは交流人口の拡大をもたらし、地域活性化の有効な手法として期待されています。

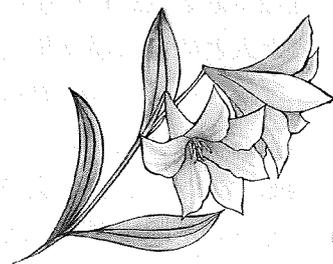
観光を取り巻く環境として旅行に対する志向は、従来の観光地周遊型から「テーマ志向」、「地元との交流・体験志向」などに移行し、旅行形態も団体旅行が減少し、家族や友人と出かける小グループ旅行が主体となっています。本町は、大朝日岳をはじめとしたすばらしい自然環境とおいしい農産物、歴史・文化等の地域資源を有しており、こうした地域資源を農業、製造業、商業など全ての産業が連携して、「体験・交流」といった要素を取り入れた着地型観光等新たな魅力づくりに取り組んでいく必要があります。

本町への観光者数は、平成4年の39万9千人をピークに減少傾向にありましたが、朝日町ワイン城や直売施設などのオープン、県内高速道路の一部無料化やETC休日特別割引の効果もあり、持ち直し傾向にあります。

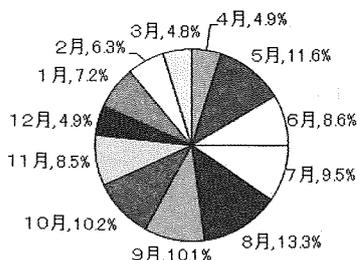
月別の観光動向は、8月をピークに5月、9月、10月の入り込みが高く、12月以降4月までの入り込みが少なくなっています。特に、11月は気温が低下し肌寒い時期でありながら、ふじりんごの収穫時期と重なり来訪者数が多くなっているのが、本町の特徴です。年間を通じた観光の確立が必要ですが、特に冬季間については、スキー客が年々減少する傾向の中で、新たな冬の観光の魅力付けが求められます。

また、町の経済的な発展のための重要な視点が交流です。朝日町に多くの人々を呼び込むためには、朝日町ならではの「もてなし」や地域資源の活用が重要です。大朝日岳や最上川などの秀麗な自然環境や先人が築いてきた伝統文化など光り輝く資源がたくさんあり、こうした資源を活かしながら、人と人のつながりを大切にした「もてなしの交流」を進める必要があります。

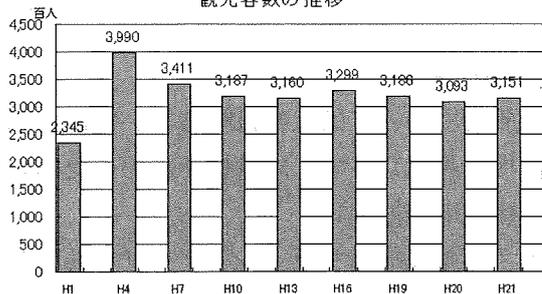
そして、朝日町を元気にしていくためには、外への情報発信が重要です。これら産業の成果を「朝日町ブランド」に集大成し、朝日町を全国に情報発信していく必要があります。



観光客 月別割合



観光客数の推移



III 基本方針

○地域資源を活かしながら、

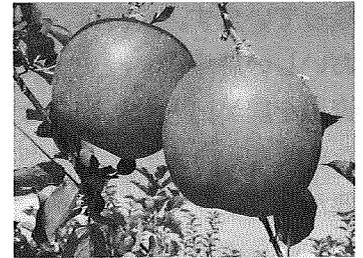
人と人とのつながりを大切にした「もてなしの交流」

エコミュージアムの取り組みによる地域資源の掘り起こしや地域住民の自主的な取り組みによる地域資源を活かした地域づくりは、地域住民の楽しみのほかに訪れた人に元気を与える魅力的な場にもなっています。こうした地域資源を活かしながら、人と人とのつながりを大切にした「もてなしの交流」を進めます。



○農を推進力に多様な産業が連携した観光産業による地域経済の活性化

町の基幹産業は農業であり、農業が潤うことで地域経済は発展し安定した観光産業をつくることができます。朝日町の強みは大朝日岳をはじめとした素晴らしい自然環境とおいしい農産物です。これらを朝日町観光のキーワードとし、農業とマッチングした産業の振興と交流による地域経済の活性化を進めます。



○これらの基本方針から、観光のまちづくりがめざす将来の姿を「大朝日岳が作りだす、水と緑のある里山での体験（あそび）」とします

大朝日岳山麓を源とする朝日川やブナの原生林、澄んだ空気と最上川からの朝霧で育まれた日本一おいしい無袋ふじをはじめとした多様な農産物、このような水と緑のある朝日町で、人と人とのつながりを大切にしたい着地型体験観光・交流をめざします。

IV 施策の展開

1. 人材育成と観光振興態勢づくり

町の良さを知り、町をさらに誇れる町民となるために、エコミュージアムを通して足元を見つめる機会を提供します。

人と人とのつながりを大切にしたい町民総参加の「もてなし」運動を展開し、町民の地域愛着心を高めます。

観光推進会議を立ち上げ、観光計画を具体的に実行に移す態勢づくりを進めます。

観光の推進組織である朝日町観光協会強化を支援するとともに、農業団体や区等と連携して進めます。



2. 舞台の整備

観光施設については、朝日町らしい整備と朝日町サイン計画に基づいた案内板を設置します。周遊性を高めるための道路整備を進めます。

(主要観光地の振興)

町内主要観光地のブラッシュアップを進めながら、主要観光地を結びつけるストーリー性のある取り組みを進めます。

3. 交流の促進

具体的な交流の展開について、体験型、自然活用型、イベント型、グリーンツーリズム型、広域型、複合型について調査研究し、実施します。

朝日町に関心を持つ人や愛してくれる人のファンクラブを設立し、町民との交流を通して地域応援の仕組みに参加する場をつくり、交流を促進します。

交流を展開する中で生まれる産業の支援と、地場産業の更なる振興を図ります。



4. 情報の受信及び発信

地域資源調査で得られた情報や個人、企業、団体が有している情報を共有し、人づくり、地域づくり、商品づくりの素材として提供します。

観光客に対しては、メディアを活用しながら情報を発信し、パンフレットなど刊行物の充実を図ります。

5. 観光産業の振興

観光産業は幅が広く多くの産業を包括しており、各産業が結びついた第6次産業として推進を図ります。

おいしい農産物を活用した特産品の開発を進め、成果品の活用を積極的に行います。

以下、各論で具体的な計画を示します。



V 目 標 (指標)

計画期間終了年度の観光者数(延数)を管理指標とし、目標を40万人とします。

また、観光消費額については現状の数値がないため、計画期間中の評価指標とします。

観光者数 40万人(平成29年度)

(根拠資料:山形県観光者数調査)

観光消費額

設定した地点における総売上額を観光者数で除算した数値

※ 設定地点は、10箇所程度の主要な観光施設とします。

Ⅰ 人材育成と観光振興態勢づくり

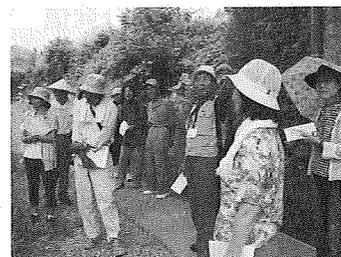
1. 観光産業マネージャーの発掘育成

観光に結びつく各種団体間の連携強化を推進し、観光による産業興しを総合的にマネジメントする人材の発掘、育成を進めます。

2. 町民総ガイドの推進

町民だれもが、自分が住んでいる地域を、自信をもって紹介できる町民総ガイドを目指します。

- ・指導者の育成
- ・地域の歴史、生活文化、自然などの資料収集
- ・朝日町読本の活用
- ・生涯学習、家庭教育、学校教育の中での学習の場の提供



3. 案内人の育成

観光の案内は朝日町観光協会が主となり、サテライトは朝日町エコミュージアムガイド（まちの案内人）に引き受けてもらうことを基本とし、各団体が連携して研修会を実施します。

4. 各種インストラクターの育成

農業とマッチングした観光・交流としての体験観光や体験学習、自然環境を活かした観光・交流としての環境学習や自然観察、さらにはニューレジャーなどさまざまな分野において解説や技術的指導を行うリーダー、実践者を養成します。

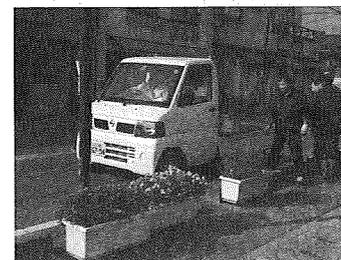
5. 来訪者を受け入れる環境づくり

町民総参加の「もてなし」運動の展開

- ・花いっぱい運動の推進
- ・地区との協働による清掃活動

6. 観光推進会議の設置

観光計画の具現化と各事業のステップアップを図るため、関係団体で組織する推進会議を設置し、全体スケジュールと役割分担、各年度の事業推進と事後評価を行います。また、関係団体の情報交換の場としての活用も図ります。



7. 推進態勢の整備

(1) 朝日町観光協会強化の支援

会員制度などを見直し、組織の強化を図るとともに、観光情報の収集・発信・観光客受け入れ窓口としての機能強化を支援します。

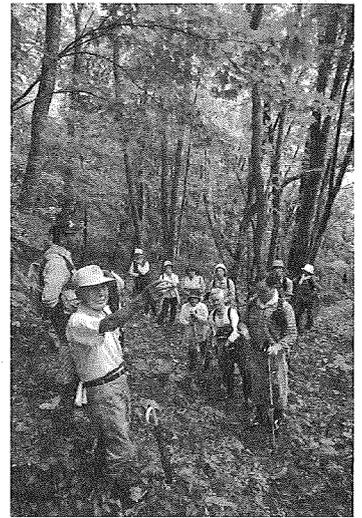
(2) 農業団体や区等との連携

朝日町の基幹産業である農業をしっかり支えることで、安定した観光産業をつくることができます。恵まれた自然環境と卓越した農業技術で育てられた農産物を活用した観光を推進するため、農業団体との連携を図ります。

地域住民の自主的な取り組みによる地域資源を活かした地域づくりは、地域ならではの生活を楽しむことと訪れた人に元気を与える魅力的な場ともなっています。区や地域等と連携した地域の宝物を活用した交流・観光を推進します。

(3) 中間支援態勢の構築

地域資源を活かした観光商品・特産品を開発し販売するため、各団体との連携強化の中で、生産者や地域と市場とをつなぐ中間支援態勢を構築します。



II 舞台の整備

1. 観光資源の発掘

地域資源を見つめ直し、そこに光をあてて磨き上げる地域資源発掘をエコミュージアム協会と連携して進めます。

(1) 地域資源調査

観光は総合産業の意味合いから、観光の素材となる資源のみならず、でき得る限りの資源を調査します。

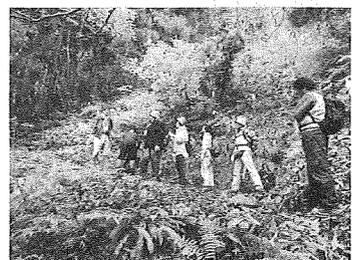
(2) 地域資源の観光資源化

地域資源を発掘し、水と緑、里山などのキーワードの組み合わせによるストーリー性のある観光資源としての展開を進めます。

2. 観光施設の整備

- (1) 朝日連峰（別掲：山岳観光）
- (2) 最上川流域（別掲：最上川とその流域）
- (3) 朝日自然観（別掲：朝日自然観）
- (4) りんご温泉（別掲：りんご温泉）
- (5) 名勝大沼の浮島（別掲：大沼の浮島及びその周辺）
- (6) 空気神社（別掲：空気神社）
- (7) 朝日町ワイン（別掲：朝日町ワイン）
- (8) 榎平棚田の保全（別掲：榎平の棚田と一本松ひめさゆり園）
- (9) 豊龍公園

朝日町の特徴や四季が感じられる花木等の植栽を関係者と連携して進めます。石たたみが整備されたのにあわせて、街あるきのコースとして利用を図ります。



(10) プレミアムフルーツ園

果樹栽培に適した自然環境の中で、ここでしか味わえない完熟した果物のおいしさを体験できるプレミアムフルーツ園設置の可能性について調査研究します。

(11) 観光山菜園の設置

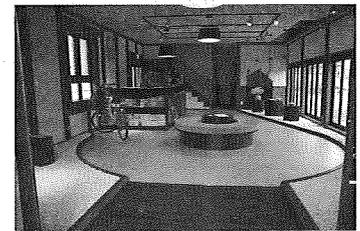
山間地域の特産品として栽培されている山菜について、観光山菜園としての可能性について調査研究します。



3. 観光案内施設の整備

(1) 観光案内所の設置

総合観光案内所「あさひ旅のココロ館」を町観光拠点施設に位置づけながら、朝日町の旅がここから始まるような仕組みづくりを進めます。



(2) 観光案内板の設置

観光案内板（説明板）、遊歩道の順路及び簡単な説明板について、朝日町サイン計画に基づき順次設置します。またQRコードの導入や外国語の併記を進めます。

(3) 道路案内

観光地までの案内誘導看板を設置します。昭和50年代に設置した集落案内看板については、文字板のないものや倒れそうな状態になっているものが多く景観上好ましくありませんので、区の了解を得ながら撤去します。

(4) 公共交通車両によるイベントの案内

山形直行バス車両に設置されている広告案内掲示板を活用して、町のイベント案内を進めます。

4. 交通網の整備

(1) 道路の整備促進

快適で安全な走行ができるように、国・県道の整備促進について関係機関に働きかけます。

また、広域観光や周遊性を高めるための林道伏辺山線、町道一本松線の道路整備を進めます。

(2) 町外者の主要観光地へのデマンドタクシー利用

デマンドタクシーの運行エリア内に存在する観光地等への利用を促進します。

(3) 環境にやさしい移動手段の推進

「あさひ旅のココロ館」に電動機付きアシスト自転車を配置し、環境にやさしいまちめぐりを推進します。

5. モデルコースの設定

観光客が電動機付きアシスト自転車やウォーキングとして回れるモデルコースを設定します。

(1) 時間消費型

観光地間の距離と標準時間及び観光地内の所要時間を明示したコースを設定します。

(2) 目的型

自然風景、史跡・文化財めぐり、スポーツなどその目的にあったコースを設定します。



III 交流の促進

1. 交流メニューの発掘及び展開

地域が主導して企画していく「着地型旅行」を観光事業者と連携して推進します。

(1) 地域資源を活かした交流

地域住民の自主的な取り組みによる地域資源を活かした地域づくりは、訪れた人に元気を与える魅力的な空間であり、交流・観光にも結びついています。また、訪れた人からの励ましは地区住民の誇りとなり、やりがいにもつながっています。全地域での魅力ある地域づくりを推進し、町全体の交流・観光メニューとして活用します。

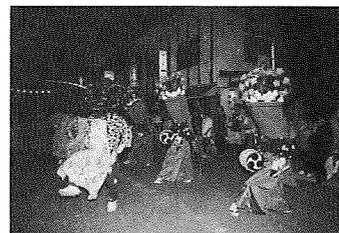
(2) 体験観光農業

自然豊かな中山間農業地域である本町は、体験観光農業の舞台としては最高の条件を備えており、農業とマッチングした交流の促進により地域の活性化が期待できます。

受け入れ側がすぐ取り組めて、利用者側も満足できるものや1回きりのメニューだけでなく、年間を通じた体験観光についても検討します。

(3) その他の体験

すでに実施されている蜜ロウソクづくりのほかに、民芸品・生活用具の製作、そば打ち・うどん打ち・菓子づくり、地域資源を生かしたリース、染物などの体験について調査研究します。



(4) 観光イベントの創出

従来のイベントを活かしながら、町民と観光客が交流できる新たなイベントの創出をおこないます。

① 四季のまつり

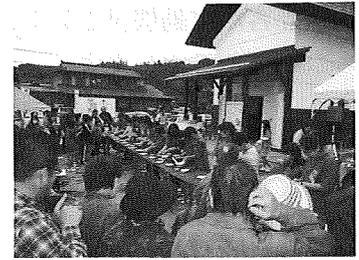
四季のまつりを総合的に演出します。山桜街道の実現をめざします。

② まつりコンテストの開催

新たなまつりの創出のため、朝日町らしいまつりの企画を一般公募し具現化します。

③ 写真コンテスト

継続した写真コンテストを実施します。作品は各イベントでの展示、ギャラリーへの展示を含め、広報誌での紹介や、ポスター、パンフレット、チラシ、カード、絵葉書、包装紙などへの活用を図ります。



(5) 交流の展開

① もてなしの交流

朝日町ならではのもてなしの心を大切にした「食」による交流を進めます。

② 体験交流

農業体験、自然体験など人とのふれあいを大切にした交流を進めます。

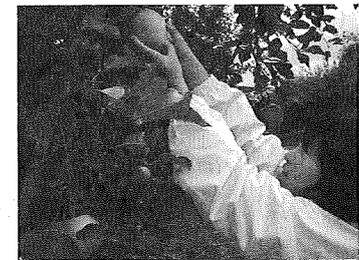
2. 朝日町ファンクラブの設立

朝日町の素晴らしさや貴重な資源を後世に残すためには、朝日町に住む人たちの努力ばかりではなく、朝日町が大好きな多くのファンたちが朝日町の魅力を活用し、地域活動に参加するなど、交流や応援する仕組みが必要です。

訪れる朝日町ファンと受け入れる町民とが、喜びを持って出会い交流する場を持つことを目的に、ファンクラブ設立を進めます。

ファンクラブ会員は、自然や町民との交流を通じて、朝日町のファンとして準町民的立場でつながりを深めてもらい、第2のふるさと（心のふるさと）として町のPRをおこないます。

さらにファンクラブ会員のもつネットワークを生かして、交流人口及びファン層の拡大を図ります。



(1) ファンクラブの設立

朝日町の素晴らしい自然や景観、歴史の積み重ね、作り手の熱い情熱から生まれる特産品を通して、朝日町が大好きな方によるファンクラブを設立します。

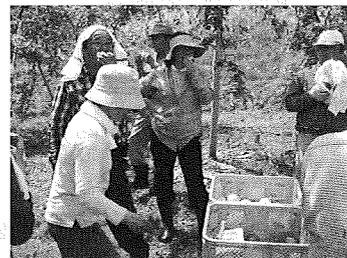
(2) ファンクラブの役割

① 役割

朝日町が大好きな朝日町ファンと朝日町民が、朝日町の自然や交流を通して地応援の仕組みに参加する場をつくり、交流を推進します。

② 特典

朝日町刊行物の提供、関係するイベント案内や参加する場の提供



(3) ファンクラブネットワーク拠点の設置

ファンクラブ員名簿をもとに、仙台圏を対象にファンクラブのネットワークを確立し、仙台支部の設立とともに、活動拠点を設置します。

3. 広域的交流・観光の推進

(1) 山形県、県観光協会、県物産協会との連携

山形県アンテナショップ「おいしいやまがたプラザ」を活用して、朝日町のおいしい食材の紹介や観光PRを展開します。

(2) 広域観光協議会との連携

「やまがた広域観光協議会」や「めでためてた♪花のやまがた観光圏推進協議会」で実施するキャンペーンなどの観光振興事業に参加します。

(3) 西村山1市4町との連携

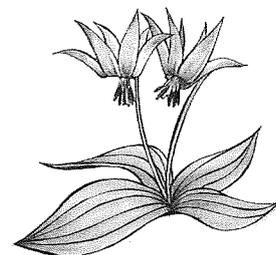
広域観光パンフレット、ロードマップを作成し、管内の観光案内所でパンフレットなどを配布できる体制をとります。

(4) 大江町・白鷹町との連携

平成20年に設立した白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会による相互の観光情報の提供や最上川を中心とした広域観光ルートの開発を進めます。

(5) 友好関係にある地域との相互交流の推進

海の子・山の子交流会による七ヶ浜町との交流事業、あいコープみやぎ会員と上郷地区との農産物販売やキッズスクール、商工会による気仙沼市本吉町との交流事業等相互交流を継続的に進めます。



IV 情報の受信及び発信

1. 情報の収集整理

(1) 地域資源データの整理

エコミュージアム協会による地域資源調査や発掘した地域資源の情報を電子化し、必要などきに必要なデータが引き出せる体制をつくります。

(2) ユーザー情報等の収集

観光客が求めているもの、朝日町の印象・改善要望などについて、イベント参加者や宿泊客に対しアンケート調査をおこないます。またエージェント等の所有している情報を収集します。

2. 観光情報の発信

(1) 町民向け情報の提供

町民総ガイド推進のため、平成22年に作成した「朝日宝物がたり」の活用を進めます。

(2) 観光情報の提供

朝日町に関心を持ってもらうための情報の提供として、パンフレット、ポスター、観光情報誌などの刊行物や新聞、テレビ、ラジオなどを活用するほか、朝日町に関心ある人や観光客に対してはインターネット、メール、観光案内板へのQRコード貼付などを活用して情報の提供を進めます。また、キャンペーン、交流会などの対面による提供も積極的に行います。

3. 情報提供の具体的方策

(1) 観光ロゴ

「観光朝日町」を象徴する観光ロゴをつくります。

(2) 観光パンフレット、ポスターの体系化

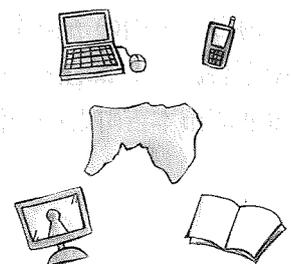
① パンフレット

周遊特典のあるパンフレットやまち歩きができる道路マップ等を作成します。

個々のパンフレットについては、総合観光パンフレットに連携したものにします。さらに民間で作成されるパンフレットについても協力を要請します。

② ポスターの作成

朝日町のイメージポスターを作成し、各イベントポスターは随時作成します。



(3) 観光情報紙の発行

季節毎に観光情報紙を発行し、町内全世帯、朝日町ファンクラブ、関係各機関に情報を提供します。

(4) インターネットの活用

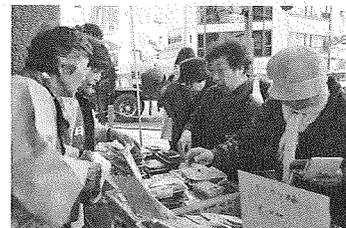
町のホームページの拡充を図るとともに、観光協会や民間との連携を密にし、効率的で効果のあるホームページとします。

季節情報やスキー場積雪情報などのリアルタイムな発信と、宿泊予約やイベント参加申込などについては、インターネットによる付加価値を付けて顧客満足度を高めます。

さらに、インターネットによる朝日町ファンクラブ員を募集し、eメールによる定期的な情報の提供をおこないます。

(5) マスコミ媒体広告の活用

新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などのマスメディアによる広告は、最大の効果をもたらしますが、範囲が広がるほど莫大な広告費用を要します。最小の費用で最大の効果をあげるために、専門誌や地方単位で発行している情報誌を含めて、マスメディアの種類、影響範囲の調査を行いながら、目的にあった活用を図ります。



(6) 観光エージェントとの連携

大手、中小旅行エージェントをリストアップし、内容、信用度、各地域におけるネットなどの調査をおこない、連携を図ります。

(7) 観光キャンペーンの実施

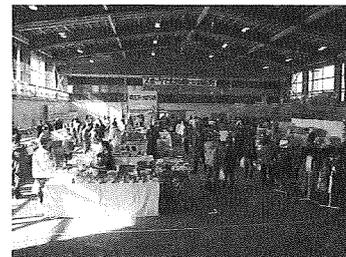
スキー、りんご、ワインなどを媒介として、山形市、仙台圏を中心にキャンペーンを実施します。

V 観光産業の振興

1. 観光産業、関連産業の活性化

観光産業は季節による変動が大きくストックが効かない、さらには零細な事業体で支えているなど、問題は少なくありません。こうしたリスクをできるだけ回避していかなければなりません。

観光産業を観光や交流目的だけでなく、町の商用、業務、視察、イベント、コンベンションなど、様々な目的で訪れるビジターの活動を通じて、地域に活力と経済的な潤いをもたらす産業として位置づけ、戦略的かつ多角的な観点から強化・育成を図ります。



(1) 観光産業基盤の強化

多角化、高度化する観光サービスへのニーズに的確に対応していくために、観光産業の体質改善を促し、経営基盤の強化を図ります。

観光産業の基盤強化のためには、事業所単位の主体的な体質改善が必要であり、施設や環境だけでなく、サービスや経営を含めて総合的に取り組むことが大切です。こうした取り組みに対し、情報提供、技術指導、人材派遣、資金などの面で積極的に支援します。

(2) 観光産業の担い手の育成

これからの観光地づくりには施設面の整備とともに、それらを運営するすぐれた人材の確保が求められています。現在観光産業にたずさわっている人をはじめ、新たに参入しようとする人に対して、関係機関と協力しながら研修会、セミナーなどを開催します。

(3) 地場産業の振興、付加価値化の推進

朝日町には農業はもとより、木工、醸造、陶芸など多彩な地場産業がありますが、一部を除いて観光との接点はありません。地場産業の振興という観点から、地場製品のPRや観光客（消費者）との交流の場の提供が望まれており、「あさひ旅のココロ館」を通して展開を進めます。

産業創造推進機構で取り組んでいる特別栽培農産物などの付加価値の高い1次製品の生産販売から、これらの素材を利用した2次製品の生産、さらに町内飲食店で料理提供まで手掛けることにより付加価値を高め、1次・2次・3次産業の総合的な推進を図ります。



2. 特産品開発と販路拡大

(1) 志藤六郎村おこし基金を活用した特産品の開発支援

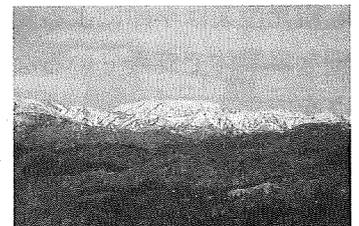
地域の素材を活かした新たな価値創造による特産品や原料の供給、加工技術の連携など異業種間の連携による特産品開発と販路開拓について、志藤六郎村おこし基金で支援します。

(2) 朝日町ブランド認定制度

町産素材を使った特産品開発を進め、朝日町宝物として有利販売できるように調査研究します。

(3) 特産品、土産品販売所の充実

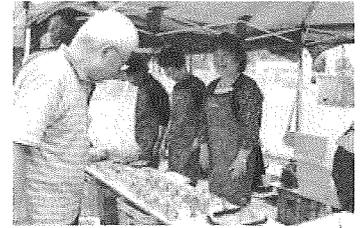
朝日自然観、りんご温泉、直売所の販売施設の充実とともに、商店街の商店での取り扱いについて調査研究します。



(4) 特産品のキャンペーン及びネットワーク化

りんご、ワインなどの特産品と、新たな特産品の販路拡大のためのキャンペーンを、山形市や仙台圏を中心に実施します。町内における各種イベント・大会での物産の展示即売の機会を増やしていきます。

直売所やインターネット販売に関心ある方などのネットワーク化を進め、PR・販売する町全体のインターネットショッピング店の開設をめざします。



(5) 魅力ある商店街と一店一品運動展開の支援

人が通りたくなるような、地域と一体となった魅力ある商店街形成に向けた取り組みを支援します。当面は、「もてなしの心」の表現や一店一品運動を推進します。

3. 朝日町素材を活用した「食」の提供

(1) りんごプロジェクトによる農産物等の提供

自然生態系を活用したミネラルバランスがよい安全な特別栽培農産物の栽培をすすめ、農産物や加工品の提携販売や町内飲食店、直売所での利活用を図ります。



(2) カフェ蔵、農家レストラン

① カフェ蔵

地元産にこだわり、特に町特産品のりんご、ワイン、ダチョウ肉、アケビ等の材料を使い、手軽な料理を提供します。四季折々にイベントを企画します。

② 農家レストラン

産業創造推進機構の取り組みによって動き出した起業グループによる農家レストランの立ち上げを支援し、旬な郷土料理の提供を進めます。



別掲 主要観光施設の整備

1. 山岳観光

朝日町は76%を森林で占めており、町の西側半分は磐梯朝日国立公園に指定されています。歴史的にも大朝日岳は山岳信仰として1300年も前から開かれ、現在も登山道としてその足跡を残しています。

朝日連峰は、鉱山採掘で一時期開発の動きもありましたが、渓谷と急峻な地形であるために大規模な開発を免れ、自然豊かな景観と多様な動植物が自然のまま生息しています。この豊かな自然を残しつつ、自然に触れ合える空間を最小限整備します。

(1) 施設の整備

登山者、釣り人、自然観察者などの安全と便宜を図るため、登山道や避難小屋の整備・管理、連絡道及び駐車場の整備を関係機関に要望します。

(2) 案内板の設置

登山者などの安全確保のため、山岳案内板、登山道・散策道の道標、距離案内板の設置について関係機関に要望します。

(3) 山岳情報の提供

広域で作成している「山行きメモ」やインターネットを介して情報の提供をします。

(4) 山岳イベントの開催

豊かで雄大な山岳を満喫できる登山や散策などの開催及び支援をします。

(5) 朝日連峰を構成する市町村との連携

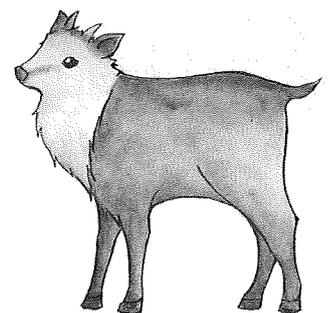
朝日連峰を構成する、朝日町、長井市、白鷹町、大江町、西川町、寒河江市、鶴岡市の連携により山岳観光の振興を図ります。

(6) 自然保護、鳥獣保護の啓蒙

自然の強さ、弱さ、尊さ、大切さと野生鳥獣の保護を、イベントなどを通して啓蒙します。

(7) 山岳遭難の防止

警察、消防、山岳遭難救助隊、山岳会及び関係機関と連携を取り、山岳遭難の防止に努めます。



2. 最上川とその流域

最上川には、豊かな川の風景や野生動植物が生息する環境と、かつて物資の輸送で栄えた舟運文化など観光資源が集積していますが、観光への利用はあまりされていない状況にあります。

さらに、朝日町を通過する地形は、最上川最大の狭窄部で五百川峡谷と称され、河川敷はほとんど見られず急流となっています。

近年、この急流を利用したスポーツ、レジャーが盛んになっています。その中でもカヌーとラフティングは、県内外から多くの人が集まっています。

この特性を生かして、山形の母なる川「最上川」とその支流である朝日川等を活用した観光の振興を図ります。



(1) 管理と利活用

フットパスについては、7月の一斉河川清掃や地元の協力を得ながら、適切に管理します。また、岩盤掘削跡が見られる舟道や開腹形アーチ橋では日本一心が和むデザインと言われるアーチが美しい旧明鏡橋などの案内として利活用を図ります。

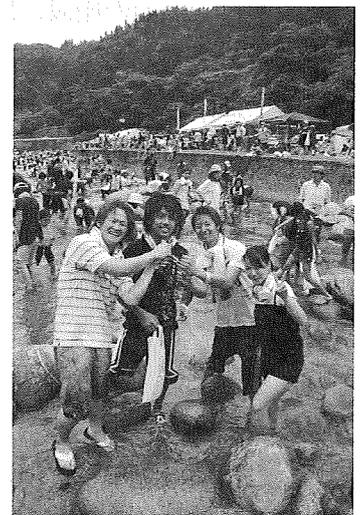
NPO「ブナの森」等による川を活用したイベントを支援します。

(2) 案内板の設置

河川の距離表示、釣り案内、マナー・ゴミ・自然保護・鳥獣保護・施設の案内について、朝日町サイン計画に基づき、案内板を設置します。

(3) 自然保護、魚族保護の啓蒙

自然の強さ、弱さ、尊さ、大切さと魚族保護を、イベントなどを通して啓蒙します。



3. 朝日自然観

朝日自然観は朝日町最大の観光地であり、交流の場、憩いの場として、さらに総合産業として活性化を進めていく必要があります。

(1) 観光情報機能の充実

観光拠点として、観光案内、体験情報提供などの機能の充実を図ります。

(2) 体験型観光の推進

朝日自然観のイメージに沿った滞在型・体験型観光を推進します。

① 森林浴による健康増進

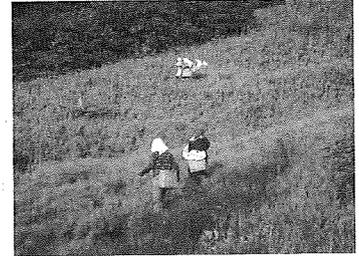
安心してウォーキングが楽しめるよう空気神社参道や朝日修験道跡を整備し、心身のリフレッシュと地場産品を活用した健康食を提供するなど、森林浴による健康増進基地をめざします。

② 観光ワラビ園

白倉地区特産のワラビ取りが体験できる園地を整備します。

③ 農業体験

椹平の棚田やりんご等、農家と連携した農業体験プログラムを準備します。



(3) イベントの開催

朝日自然観のイメージにあったイベントを開催及び支援します。

① 独自イベントの支援

朝日自然観の施設、周辺の自然を使ったイベントの開催に対して支援します。

② 他団体との連携

白倉区や他団体と連携した取り組みを進めます。

4. りんご温泉

りんご温泉は、朝日自然観、大沼浮島と並ぶ観光地として朝日町の観光を支えています。

りんご温泉は、泉質、湯量が良好で、町内のみならず、県内外からの入湯客が訪れています。

(1) 観光情報機能の充実

観光拠点として、観光案内、体験情報提供などの機能の充実を図ります。

(2) 施設の整備

半日や1日単位でのんびりと過ごせる施設の整備と支援を行います。

世界のりんご園は、観光としての活用を進めます。



5. 大沼浮島及びその周辺

大沼の浮島は1300年の歴史があり、大正14年には国の名勝に指定され、町の最大の観光地として支えてきました。浮島はもとより、大行院、浮嶋稲荷神社などの資源も豊富にそろっており、現在も多くの観光客が訪れます。

大沼は神秘的な浮き島現象とともに、沼周辺には種類豊かな植生がみられます。また、周囲が浮嶋稲荷神社境内のため静寂感があり、小鳥のさえずりやそよ風によって心が洗われる思いがします。

心の癒しの場として大沼浮島の環境を保全します。

(1) 施設の整備

大沼の浮島は名勝であり、個々の整備は制限されています。周辺整備にあたっては、景観や特徴を損なわないよう整備検討委員会を設置して検討します。



6. 空気神社

空気神社は、空気に感謝する心を育むことを目的に、空気神社建立奉賛会を主体に、平成2年完成、平成4年には、世界環境デーである6月5日を「空気の日」に条例で制定し、世界に向けて、「空気と環境の大切さ」を発信しています。

空気神社は朝日自然観エリア内にあることから、朝日自然観観光を補完する役割を持っており、今後もその役割は益々大きく、その振興を図ります。

(1) 施設の整備

① 空気神社の維持管理

鏡面の清掃など適切な維持管理を行います。

② 空気神社エリアの環境整備

危険立木・密植立木の伐採など空気神社らしい環境に整備します。

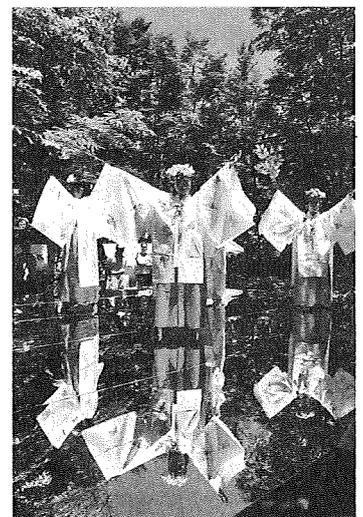
③ 参道の整備

参道と併せて、五行のモニュメントを修繕します。

(2) イベントの開催

① 空気まつりの活性化

「空気」「自然」について、世界に発信できるまつりになるよう調査研究をします。



7. 朝日町ワイン

朝日町でのワイン製造の歴史は古く、昭和19年に山形果実酒製造として発足し、昭和48年初のブランド「サンワイン」を発売以来、本格的なワインの製造がされてきました。昭和54年「朝日町ワイン」が誕生し、現在ではりんごと並ぶ最大の特産品となっています。さらに国産ワインコンクールのロゼ部門では平成18年から3年間最優秀カテゴリー賞を受賞するなど、品質の向上に努めています。

ワインを取り巻く情勢は、大手メーカーの攻勢、輸入ワインの増大、ワイン製造メーカーの増加など厳しいものがありますが、朝日町ワインが安定した特産品として定着を図るとともに、ワイン城を見る、体験する、親しむといった交流を加味した観光の拠点として支援します。

(1) 観光情報機能の充実

観光拠点として、観光案内、体験情報提供などの機能の充実を図ります。また、町特産品との組み合わせ販売について検討します。

(2) イベントの開催

朝日自然観やカフェ蔵等による「ミニワインまつり」開催を支援します。



8. 榎平の棚田と一本松ひめさゆり園

榎平の棚田は、平成11年度農林水産省の「日本の棚田百選」に認定されました。扇状に広がった棚田の面積は14ヘクタールあり、ひめさゆり園のある一本松公園からは周辺の山々や最上川とよく調和した棚田を一望することができることから、県内外から多くの観光客が訪れています。



(1) 施設の整備保全

榎平の棚田とひめさゆり園の保全は、農業者や地域の方のみならず多くの賛同者で行っており、これからも協働の取り組みを進めます。

① 榎平棚田の保全

地権者、耕作者、土地改良区、地区民と棚田保全隊が連携して保全活動を進めます。

② ヒメサユリ園

町の花であるヒメサユリに対する理解と保全を進めるため、自生地である能中の一本松周辺をヒメサユリ園として整備します。

(2) イベントの開催

地区主催による「ひめさゆりまつり」を継続実施できるよう働きかけながら、空気まつりイベントを通して案内や周知を行うなど連携を強化します。

